



## 認定看護師の活動や情報を紹介します



### あけましておめでとうございます！

今年も院内のベットサイドケアの質の向上に向けて皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。ぜひ認定看護師をご活用下さい！

#### 「新生児蘇生法講習会インストラクターとしての活動」

NICU 新生児集中ケア認定看護師 大淵友紀

毎年定期的開催している新生児蘇生法講習会で、インストラクターを務めています。毎回30名程度、新生児の蘇生に関わる医療職や助産学科講師など多数の方が参加されます。

成人では心原性による心停止が多いのに比べ、小児・新生児では呼吸停止に引き続き心停止に至ることが多いため、呼吸停止の時点で適切に対応できれば生存率は高くなります。そのため、気道確保や人工呼吸などの対応を早期に適切に実施することが重要とされています。

講習会では新生児蘇生に関する知識を学び、気道確保や人工呼吸、胸骨圧迫法などの技術演習、シナリオに沿ったシミュレーションを行い、講習会での学びを復習します。

新生児蘇生法について学習したい、必要な技術を習得したいと思う時はいつでもご相談下さい。

#### 「合同カンファレンスに参加して」

点滴センター

がん化学療法看護認定看護師 岩崎真実

進行がんの患者さんが化学療法変更目的で入院し、入院中・点滴センターや外来の関わりを共有し、看護の方向性を考えるカンファレンスに参加しました。病棟スタッフが関わりで困っていた身体症状以外の心理、社会的側面など共有し、入院中に行うケアや外来継続のための看護診断を検討しました。病棟と外来、点滴センターが連携し、患者さんやご家族の受け止め、サポート体制や症状アセスメントなど情報やケアを外来に引き継ぐことは、患者さんが安楽に化学療法を続けることにつながります。患者さんやご家族の精神的サポート、投与管理、副作用対策など化学療法看護でお困り時にはぜひご連絡ください。



#### 「認定取得2年目になって」

6東NS 皮膚・排泄ケア認定看護師 本間美穂

皮膚・排泄ケア認定看護師となり今年で2年目になります。昨年は6東NSでの活動でしたが、今年度から他病棟や外来でストーマケアを行っています。ストーマを保有することは排泄行動が大きく変化し、身体的・精神的・社会的にも様々な不安が出現します。患者さんのストーマ受容は簡単ではありませんが、ストーマケアの指導を通じて、排泄行動を自立することが自己尊厳につながると考えケアを行っています。また、これまで通りの生活に近づけるよう、患者さんや病棟看護師と共に考え活動を続けていこうと考えています。



#### 「感染制御部での活動」

感染制御部 感染管理認定看護師 石上 香

平成28年度は感染対策のラウンドに関する施設基準の考え方が変更され、日本中の病院の感染対策を行う部門が混乱するなか、感染制御部に戻ることになりました。当院も医師・薬剤師・検査技師との多職種からなるチームで試行錯誤しながらラウンドしています。

ラウンドでの気づきも大切ですが、実はコンサルテーションから、感染対策やマニュアル改訂のヒントをいただくことも多くあります。小さなことでも大きな感染対策につながりますので、気軽に声をかけて下さい。

# すぐに活かせるベッドサイドケア

今月号は、  
笹田緩和ケア認定看護師と  
野中がん放射線療法看護認定看護師から  
がん看護に関連するお話をお聞きしました。



## 口腔乾燥のワンポイントケア！

頭頸部の放射線治療、化学療法、絶食療法などの治療をしている患者さんの口腔環境は、唾液が減少し、口腔乾燥が起こりやすくなります。口腔乾燥が起こると、歯周病、口内炎、口腔カンジダ、味覚障害など様々な口腔トラブルにつながります。口腔乾燥で夜も眠れない、食べにくい、口の中や舌が痛い、味覚障害があるなど口腔トラブルで困る前に、きれいにし、潤い強化で口腔環境を改善しましょう。

スプレー容器に、保湿成分の入った洗口液(売店で購入できます)を入れます。歯磨きの後、外出時、就寝後などスプレーすると口腔乾燥が改善し、苦痛も緩和します。簡単、手軽で効果があるので、是非試してみてください。



口の中を日々観察していますか？  
口腔乾燥があったら、きれいにし潤い強化を！

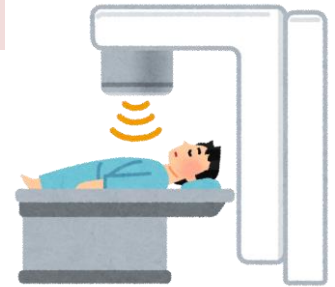
腫瘍センター 緩和ケア認定看護師 笹田豊枝

## 放射線治療による転移性骨転移の疼痛緩和へのワンポイントケア！

有痛性骨転移に苦しむ患者さんは、医療用麻薬の使用や放射線治療による緩和的治療を行う場合があります。放射線治療は、がん腫自体が放出する発痛物質の分泌を抑制する等して鎮痛を図ります。しかし照射による鎮痛効果はすぐに得られないため、疼痛によりプランニングCTや治療中の安静臥床が困難な場合は、事前に麻薬による鎮痛を図ることが必要です。また治療開始数日以内に一過性に疼痛が増強すること(ペインフレア現象)があるため、痛みレベルを観察し、効果的に鎮痛剤を使用できるように、患者さんへの説明が重要となります。

放射線治療は、患者の苦痛を全人的に捉え、多職種によるチーム医療で、患者さんの苦痛の緩和を図り、決められた期間の放射線治療を支援していくことが重要です。

放射線療法でお困りの時は、認定看護師にご連絡ください。



5 西NS がん放射線療法看護認定看護師 野中雅人